

国内の閉園した遊園地・レジャー施設の跡地利用に関する研究

-既存施設を再活用した事例の閉園前後のプロセスと利用者の変化の比較検証-

正会員 ○ 瀬川 明日奈*
同 中島 直人**
同 黒瀬 武史***

遊園地 テーマパーク 跡地利用
閉園 既存施設 再活用

1. 研究の背景・既往研究

少子化、人口減少、レジャーの多様化、地方衰退により、今後閉園する遊園地・テーマパークの増加が見込まれる。これらの跡地は敷地規模が大きい...

すでに川崎(2014)の鉄道沿線の遊園地跡地利用を対象とした研究や足立ら(2013)による遊園地閉園が周辺地区にもたらす影響に関する研究はされているが、従前施設を活用した遊園地・テーマパークを対象にした研究はない。

2. 研究の目的・方法

本稿は全国で閉園した遊園地・テーマパークの跡地利用の動向を明らかにする。さらに施設の一部を再活用した跡地利用事例のプロセスをそれぞれ検証・比較し、そのプロセスに至った主な要因を明らかにする。

地利用事例のプロセスをそれぞれ検証・比較し、そのプロセスに至った主な要因を明らかにする。

3章では閉園した遊園地・テーマパーク跡地利用の体系的整理を行う。ウェブ上で収集した情報をもとに、新聞データベース(朝日・読売・毎日・日経)や書籍、論文に記載されているものを抜粋し、開園・閉園年、事業主体者、立地、跡地用途を基準に分類する。4章では、分類した一覧の中から、従前の遊園地施設を再活用しており、かつ宅地や商業とは異なった跡地利用事例の比較検証を行う。本稿では「化女沼レジャーランド」「呉ポートピアランド」「到津遊園」の三施設を対象事例とする。検証の焦点として、(1)閉園前後のプロセス(2)空間の継承性(再活用した既存遊具や施設)(3)利用者の変化の3つを挙げる。

3. 閉園した遊園地・テーマパークの跡地利用動向

閉園した遊園地・テーマパーク事例の開園期間・事業主体・立地・跡地用途に着目し、一覧として作成した。(表1)また跡地利用するにあたって、施設撤去の有無、新たな

表1 閉園した遊園地・テーマパーク一覧

Table with columns: 属性, 名称, 所在地, 開園年, 閉園年, 事業主体, 立地, 跡地用途. Lists various amusement parks and their closure details.

表2 跡地利用の属性別傾向

Table with columns: 属性, 件数, 立地, 開園年, 事業者, 跡地用途. Analyzes trends in land use attributes.

表3 三事例の比較

Table comparing three cases: 化女沼レジャーランド, 呉ポートピアパーク, 到津の森公園. Columns include 施設名, 前事業者, 所有・運営, 入園料, 収益源 / 予算, 整備費, 立地, テーマ / 方針, 残存施設, 活用 / 整備理由, 整備期間.

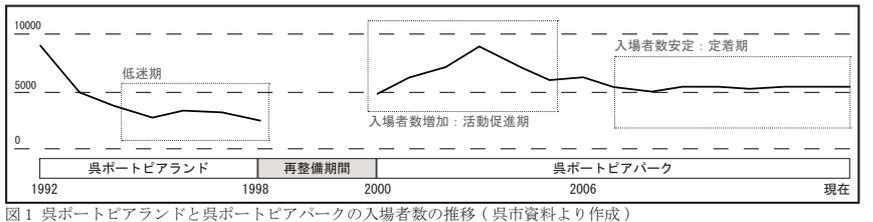


図1 呉ポートピアランドと呉ポートピアパークの入場者数の推移(呉市資料より作成)

A Study on Transformation of Defunct Domestic Amusement Parks
-Comparison of Case Studies on Reuse of Existing Facilities: Focusing on the Process of Before and After Closure and the Change in Visitors-

SEGAWA Asuna

な建築物の有無、用途の有無の3項目に沿って、5つの属性に分類した。それぞれの傾向は表2に示している。

4. 従前の施設を活用した事例

前章で分類した従前の遊具や施設を活用した施設活用型事例の内、次の三事例においてヒアリング調査を行った。それぞれの特徴とその比較を表3に記した。

(1)化女沼レジャーランド

開園当時一度もメディアに取り上げられたことがなかったが、事業者（オーナー）の思いから閉園後解体せずに廃墟化した結果、廃墟愛好家などから徐々に注目を集めた（図2）。閉園して数年が経ってからメディアに取り上げられたことをきっかけに、ライブやコスプレイベントの会場や映画のロケ地、廃墟ツアーの目的地として利用され始める。化女沼レジャーランドの開園当時は地域住民を中心として利用されていたのに対し、閉園後廃墟化してから外部からの利用に変化している（図3）。

(2)呉ポートピアランド

第三セクターが事業主体となり、遊園地として開園当初は来場者数も多かったが、徐々に減少し1998年に閉園、三セクは経営破綻に追い込まれた。破綻後、呉市役所は再び市民の憩いの場を設けるために、市民の無料公園「呉ポートピアパーク」として再整備した（図4）。開園初期の市民に定着させるための一時的な盛り上がりを見せた活動促進期を除くと、指定管理者移行後は安定した入場者数を確保している。呉ポートピアランドは市民のリピーター率が低かったのに対し、呉ポートピアパークとして開園後は市民から一定頻度の利用がある（図1, 5）。

(3)到津遊園

事業者である電鉄の経営方針の変更により閉園が決まるも、市民26万人の署名をきっかけに有料公園かつ市民動物園「到津の森公園」として北九州に再整備された（図6）。到津遊園開園時でも、常に市民が日常的に利用していたため、署名活動も活発に行われた（図7）。到津の森公園として再開後も市民の教育活動の一部として機能し続けている。

5. まとめ

3章では遊園地・テーマパークの跡地利用の動向を整理し、5つの属性に分類した。4章では施設活用型事例の中から、聞き取り調査を行った三事例のそれぞれの閉園前後のプロセス、空間の継承性、利用者の変化に着目した。三事例で共通している点は、それぞれ閉園前の施設を活用するきっかけとなる人物あるいは団体が存在し、再整備や維持がされているという点である。しかし、プロセスあるいは、事業主体や立地などの前提条件に関しては事例ごとに大きく異なっている。これらの差異を掘り下げ、従前施設を活用した跡地利用の可能性について、今後も検討していきたい。

参考文献

- 川崎泰之 (2014) 「鉄道会社が経営する郊外遊園地の跡地利用に関する研究」、日本都市計画学会都市計画論文集 49(3), pp273-278
- 足立結実・小林秀樹・丁志映 (2013) 「遊園地閉園による周辺地域の変容に関する研究」、日本建築学会大会学術講演梗概集 pp743-744
- 葉袋奈美子 (2004) 「到津の森公園開園に向けての行政の対応-公園運営へ市民を巻き込むための方策-」、日本建築学会北陸支部研究報告集, pp383-386、日本建築学会聞き取り調査先
- 古川商会後藤社長 (H28. 1. 24) / 呉市役所市民窓口課小山氏・土木課後山氏 (H28. 1. 26) / 呉市役所明丘副市長 (H28. 1. 27) / 呉ポートピアパーク友の会羽根氏 (H28. 1. 27) / 大和ミュージアム理事上元氏 (H28. 1. 27) / 到津の森公園事務管理係長梅崎氏 (H28. 1. 29)



図2 化女沼レジャーランド (出典: GoogleMap)

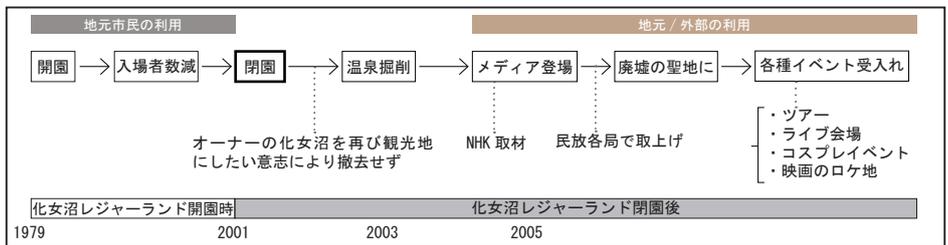


図3 化女沼レジャーランドの利用者変化と転換プロセス



図4 呉ポートピアパーク (出典: GoogleMap)

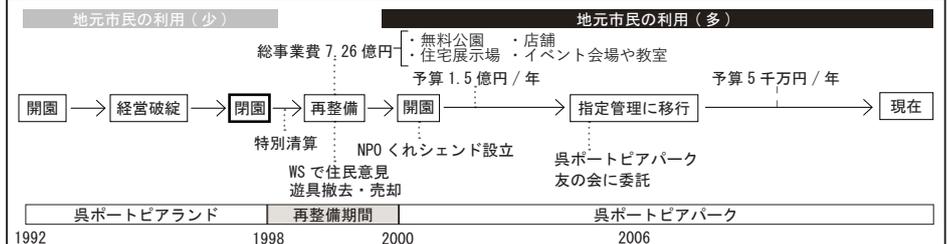


図5 呉ポートピアランドと呉ポートピアパークの利用者変化と転換プロセス



図6 到津の森公園 (GoogleMap)

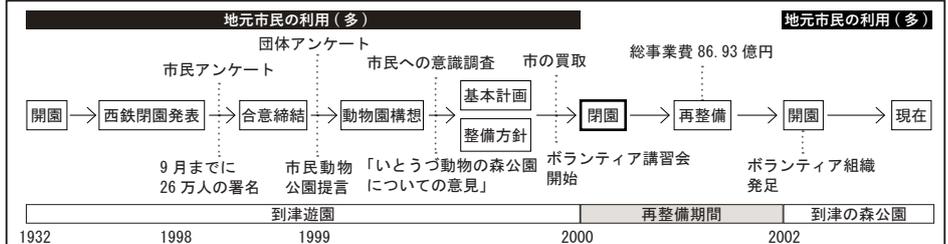


図7 到津遊園と到津の森公園の転換プロセス

* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修士課程
 ** 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授
 *** 九州大学大学院人間環境学研究院都市建築学部門 准教授

*Graduate Student, Dept. of Urban Engineering, Graduate School of Engineering, Univ. of Tokyo
 **Associate Prof, Dept. of Urban Engineering, Graduate School of Engineering, Univ. of Tokyo
 ***Associate Prof, Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu Univ.